

項目コード	検査項目	検体量 (ml)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
4605	淋菌核酸検出 (淋菌同定DNA)	ぬぐい液	101	冷蔵	3~4	204 ^① 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照	淋菌感染症
4933		尿4.5	102					検出せず	初尿 (男性のみ) 同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい	
4957		うがい液4.5	103					検出せず	次ページ参照	
5142	クラミジア・トラコマチス核酸検出 (クラミジア・トラコマチス同定DNA)	ぬぐい液	101	冷蔵	3~4	204 ^② 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照	クラミジア・トラコマチス感染症 新生児・新生児結膜炎 肺炎 男性:尿道炎 女性:子宮頸管炎 咽頭炎
4934		尿4.5	102					検出せず	初尿、同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい	
4956		うがい液4.5	103					検出せず	次ページ参照	
4805	淋菌・クラミジア・トラコマチス同時核酸検出	ぬぐい液	101	冷蔵	3~4	286 ^③ 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照	淋菌感染症 クラミジア・トラコマチス感染症 (重複感染)
4932		尿4.5	102					検出せず	初尿 (男性のみ) 同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい	
4958		うがい液4.5	103					検出せず	次ページ参照	
0650	便中アメーバ検査*	便、肝臓瘍組織	10	37℃保温	2~3	45 微生物	顕微鏡検査	認めず		アメーバ性肝臓瘍 腸アメーバ症

① 淋菌核酸検出

- ア 区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査「2」の淋菌核酸検出、区分番号「D012」感染症免疫学的検査の「32」淋菌抗原定性又は区分番号「D018」細菌培養同定検査 (淋菌感染を疑って実施するもの) を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
- イ 淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法による。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。ただし、男子尿を含み、女子尿を含まない。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法においては咽頭からの検体も算定できる。

② クラミジア・トラコマチス核酸検出

- ア 区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査「2」のクラミジア・トラコマチス核酸検出と区分番号「D012」感染症免疫学的検査の「26」クラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
- イ クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、核酸ハイブリダイゼーション法、ハイブリッドキャプチャー法、SDA法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。

③ 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出

- ア 区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査「4」の淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。
ただし、区分番号「D012」感染症免疫学的検査の「32」淋菌抗原定性、同区分「26」のクラミジア・トラコマチス抗原定性、区分番号「D018」細菌培養同定検査 (淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの)、本区分「2」の淋菌核酸検出又はクラミジア・トラコマチス核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- イ 区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査「4」の淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はSDA法による。淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。ただし、男子尿は含み、女子尿は含まない。なお、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、SDA法又はPCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法においては咽頭からの検体も算定できる。

*《便中アメーバ検査》

アメーバ栄養型は低温に弱く、時間経過とともに自己崩壊するため、偽定を出して活発に運動している状態を検出するには、検体採取後37℃保存で2時間以内に鏡検する必要がある。
4時間までは微動が確認されるが、それ以降の検出は困難である。



クラミジア・トラコマチス抗原・淋菌抗原 PCR 採取条件・提出条件

性器クラミジア/淋菌 検体の採取方法



尿



1 尿検体の採取

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿をコバスPCRメディアに移します。

注意 初尿は採取後2~30℃で24時間以内にPCRメディアに移してください。

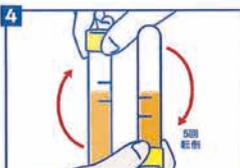


2 コバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。



3 尿検体の保存

コバスPCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。



4 コバスPCRメディアを5回転倒混和させてください。

■ 検体採取上の注意

- 初尿はPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない場合があります。
- 初尿は2~30℃で24時間以内にコバスPCRメディアに移してください。

尿検体を保存したコバスPCRメディアは2~30℃で12ヶ月安定です。

■ 一般的な注意

- 女性の尿を採取する前は消毒しないでください。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないでください。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散に十分ご注意ください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結させないでください。

うがい液



1 うがいの仕方

生食用塩水(日清食品など)をコップに15~20ml入れてください。生食用塩水15~20mlを口に含み、唇を上に向けて10~20秒間、勢いよく「ガラガ」とうがいを行います。

注意 口に含んで吐き出した液とうがい用容器に残した液を合わせてうがい液とします。



2 検体輸送液への懸濁

うがい液全量をうがい用容器に回収し、スポイトでコバスPCRメディア(尿・うがい用)に必要量添加します。

注意 うがい液はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。



3 検体容器の保管

PCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。PCRメディアを5回転倒混和させてください。

■ 検体採取上の注意

- うがい液はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない場合があります。

うがい液検体を保存したコバスPCRメディアは2~30℃で12ヶ月安定です。

うがい液をPCRメディアに入れない場合は2~8℃で冷蔵してください。採取から10日以内にコバスPCRメディアに入れてください。

■ 一般的な注意

- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散には十分ご注意ください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結させないでください。

微生物学的検査

性器クラミジア/淋菌 検体の採取方法



子宮頸管



1 子宮頸部の粘液除去

スワブ検体採取セット付属の1本目のスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭き取ります。

注意 粘着を拭いたスワブは廃棄します。



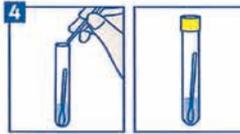
2 子宮頸管検体の採取

付属されている2本目のスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(まわし過ぎないでください)スワブを引き抜く際は壁の粘膜に触れないように注意してください。



3 子宮頸管検体の保存

コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したスワブの先端の綿球が、コバスPCRメディアの溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線が容器の縁に合わせます。



4 コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線で折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。

注意 手元を持った折られた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にばさみを使用しないでください。

■ 検体採取上の注意

- コバスPCRスワブ検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない場合があります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取してください。
- コバスPCRメディアには検体を採取したスワブのみ入れてください。

スワブを保存したコバスPCRメディアは2~30℃で12ヶ月安定です。

■ 一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブをコバスPCRメディアに湿さないでください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散には十分ご注意ください。
- 検体を採取したスワブは速やかにコバスPCRメディアに入れてください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結しないでください。

検体採取容器



子宮頸管



コバスPCRメディア



スワブ(2本付)

子宮頸管の粘液除去用ドライブスワブ(右)
子宮頸管検体の採取用フロックスワブ(左)



尿
うがい液



コバスPCRメディア

初尿・うがい液の採取には滅菌済みスポイトをご使用ください。

この間に収まる様に検体を添加してください。